土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　三次町地区　急傾斜地崩壊対策事業に伴う測量・地質調査・設計・用地調査業務委託(交付金)その2

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　その他　自然斜面

ボーリング名	BorNo.R5-5	調査位置	広島県三次市三次町　地内			北緯	34° 49' 23.3100"
発注機関	広島県北部建設事務所			調査期間	令和5年 9月 4日～ 令和5年 9月12日	東経	132° 49' 05.0700"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	TP 196.97m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 90°東 180°南 270°西	地盤勾配	44° 鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	東邦地下工機　DO-C型
総削孔長	16.00m								エンジン	ヤンマー　NS-90EK型	ポンプ	東邦地下工機　BG-3C型

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度—N値図	N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
1	195.97	1.00		礫混り砂質土		暗褐	rd2		最上部層(表土) ・最上位は腐植混じる黒褐の腐葉土 ・砂は細ー中粒砂、礫はφ40mm程度以下の中ー粗礫が混入			27	1.15	8	9	10	27/300							
2				礫混り粘土質砂					崩積土 ・基岩同質の岩屑主体の崩壊堆積物 ・礫はφ50mm程度以下の基岩同質の細ー中礫、クサリレキ点在 ・基質は基岩風化帯を起源の粘土質砂				1.45 2.15	2	2	3	7/300							
3						黄褐	rd3					7	2.45 3.15	2	3	4	9/300							
4	192.17	4.80										9	3.45 4.15	3	3	3	9/300							
5	191.77	5.20		流紋岩		黄灰			流紋岩質凝灰岩強風化岩(DH) ・土柱状を呈す風化変質部 ・原岩組織は明瞭に残存			9	4.45 5.05	21	29/70		50/170	170						
6									流紋岩質凝灰岩(CM) ・岩質は中硬質を示し、新鮮部及び亀甲状の節理発達部が混交する ・新鮮部は短柱状主体、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する ・節理発達部では一部で開口が認められるものの、概ねでは節理間の密着は良い ・採取試料は短柱状主体を呈すものの、場所的に亀甲様の毛髪状節理に卓越する密集帯では脆く岩片ー礫状に容易に砕ける ・節理面は暗褐色に変色し場所的に膠着物(黄灰色)が挟在 ・GL-7.00m付近より、全量逸水			50以上	5.22 6.00	貫入不能			50/0	0						9/5
7																								
8																								9/6
9										9/7 9.45														
10																								
11																								
12																								9/7
13																								
14																								
15																								
16	180.97	16.00		流紋岩		灰褐																		9/8
17																								
18																								
19																								
20																								
21																								